

## 自衛隊・宇宙部隊を創設

2015年8月4日のAFP（フランス通信社：L' Agence France Presse）の報道によれば、日本の自衛隊は5年後をメドに宇宙部隊を新設する計画があることを報じている。

すなわち、8月3日の共同通信によれば「防衛省は2019年をめどに自衛隊に宇宙部隊を発足させる方針を決めた。当面は、地球の周りを回っている危険な「宇宙ごみ」などから人工衛星を守る任務を担うとしている。日米両国は先に宇宙ごみ監視での協力強化を約束している。共同通信によれば、陸海空に次ぐ「第4の戦場」といわれる宇宙分野でも日米連携の強化を図る狙いで、自衛隊の宇宙部隊が入手した情報は米軍に提供される。防衛省では、新設する宇宙部隊に航空自衛隊の要員をあてることを検討している。また宇宙部隊が監視任務を行うためのレーダーや望遠鏡などの設備は、文部科学省や宇宙航空研究開発機構（JAXA）と共同で取得する見込み。地球の周りには、役割を終えた人工衛星やロケット、その他の設備の破片などが多数漂っており、通信

衛星や偵察衛星との衝突が懸念されている。」と報じている。

宇宙ゴミによる事故は1996年フランスの衛星「セリース」がアリアンロケット（欧州のアリアンロケット社の開発した大型ロケット）の破片と衝突し、一部の機器が損傷した。2009年にはアメリカの衛星「イリジウム」が運用を終えたロシアの衛星「コスモス」と衝突、ばらばらに破壊されて運用を停止した。

JAXAは3本の金属繊維からなる漁網で宇宙ゴミを回収する方法を開発中である。この漁網は、軌道に乗ると300mまで伸びて磁場を作り、浮遊しているごみを引き寄せるといいう仕組みである。

宇宙ゴミの放出国と量は次の通りである。

国 / 団体	人工衛星数	ロケット機体や破片数	合計
CIS (独立国家共同体)	1406	4646	6052
アメリカ	1142	3691	4833
中国	100	3388	3488
フランス	49	431	480
日本	114	75	189
インド	41	132	173
ESA (欧州宇宙機関)	39	44	83
その他	489	112	601
合計	3380	1万2519	1万5899

CIS は旧ソ連邦の主要国の共同体（川島